

第三次環境基本計画（平成18年4月7日閣議決定） 超長期ビジョン関連記述部分 抜粋

第一部 環境の現状と環境政策の展開の方向

第2章 今後の環境政策の展開の方向

(持続可能な社会をつくり出すための考え方)

第6節 長期的な視野からの政策形成

1 50年といった長期的な視野を持った取組の推進と超長期ビジョンの策定

環境面から持続可能な社会を考えると、地球温暖化問題のように、現在の政策や社会の在り方の結果が50年以上にわたるような長期間大きな影響を与える懸念のある課題や、むしろ将来において影響が現れる課題があります。一方で、そのような課題の解決のためには、経済や社会の在り方そのものに関わり、長期間にわたる対策が求められる場合があります。

これらの長期的な環境影響や、長期的な対策が必要な課題については、実感を持って対処することが難しい面がありますが、対策が遅れることによって、より困難な対応が必要となる場合も少なくありません。今後、政策を検討するに当たっては、このような長期的な視野に立った取組に努めます。このような、例えば50年後といった時期における、環境の状態や、それと相互に影響を及ぼし合う経済や社会の姿の展望に当たっては、現状の延長による積み上げを行う手法だけでなく、あるべき将来像から考えていくバックキャストの手法も用います。すなわち、あるべき将来像を示し、そのような将来像を実現するためには、それまでの間のいつまでに何をしなければいけないか、長期的な対策と中期的な対策、さらには当面の対策についてバランスのとれたシナリオを示すことにより施策の展開を図っていくため、50年といった長期間の環境政策のビジョン（超長期ビジョン）を示します。

第二部 今四半世紀における環境政策の具体的な展開

第1章 重点分野ごとの環境政策の展開

第9節 長期的な視野を持った科学技術、環境情報、政策手法等の基盤の整備

第4項 超長期の展望の提示

1 現状と課題

21世紀において、我が国を含め、世界は歴史の大きな転換点に立っています。我が国においては、先進国の中でも特に急激な少子高齢化とそれに伴う人口減少が少なくとも今後50年を超える期間にわたって、起こるものと予測されています。同時に、世界人口は、国連の中位推計によれば2050年に90億人に達した後、ほぼその状態で安定すると推計されています。地球環境は既に深刻な問題を抱えています。今後、人類は現在より1.4倍となる人口を安定的に支えていく持続可能な世界を実現することが求められることとなります。その中でもアジアは、中国やインドの台頭をはじめとして今後世界の経済成長の中心となり、それに伴い同地域において地球環境への負荷の増大と地域環境の悪化がかなりの期間にわたって続くことが予測されています。

現在の趨勢のまま進んだのでは、地球温暖化の進行、生物多様性の喪失、水資源や化石燃料の逼迫をはじめとした地球規模の環境・資源制約が厳しさを増すとともに、国内における人口減少に伴う社会資本や二次的自然の荒廃など多くの問題に突き当たることが指摘されています。資源、食料等を海外に大きく依存している我が国は、その環境負荷の大きさにもかんがみ、地球規模での持続可能性を確保していくため、積極的な貢献を図っていくことが重要です。特に、東アジア地域の動向は、環境汚染や物質循環を通じて、深く日本と関係します。このため、世界、アジア及び我が国における2050年といった超長期の展望を見通した上で、今から何をなすべきか、検討することが必要です。

2 中長期的な目標

2050年といった超長期の将来を見据え、環境保全に関する取組の方向付け、またライフスタイルや社会システムの見直しがなされる社会を目指します。

このため、2050年といった超長期の将来展望、それを踏まえた現在から超長期にわたる対応策や見直しの在り方を明らかにすることを目指します。

3 施策の基本的方向

2050年頃の世界、アジア及び我が国の環境を見通した超長期の展望について、以下の点に留意して専門的な見地から調査、研究を行います。その際、政府の各種見直し・計画を踏まえて検討を行います。

また、社会で幅広く議論が行われるよう、研究成果である将来展望について、国内と世界に向けて広く公表します。さらに、将来展望の継続した見直しを行い、その結果を社会に継続して伝えていきます。

(1) 複数シナリオ

50年といった長い期間については、多くの不確実性があり確実な予測は困難です。このため、長期の展望に当たっては、起こりうる複数のシナリオを描いて、多様な場面に備えることが有効です。

(2) 望ましい将来像とバックカスティングという考え方

社会は、状況に流されるだけでなく、社会の構成員がどのような社会を目指すかによっても、その将来は変わりうるものです。また、現在の趨勢を将来に延長しても、持続可能な社会を実現することは困難です。

このため、まず望ましい将来像を描いて、それを将来のある時期までに実現するため段階的な経路を検討するバックカスティングと呼ばれる考え方（現在までの趨勢から予測 - フォアカスティング - と対照的な考え方）に基づいた手法を開発し、活用します。この際、人々の価値観は多様であり、望ましい社会像も複数あり得ることに留意する必要があります。

(3) 超長期の展望を踏まえた対応策・政策手法の検討

望ましい社会像の実現可能性を検証するため、超長期の展望を踏まえた対応策・政策手法の在り方を検討します。その際、技術の大きな転換とその成果の普及、環境費用を価格に反映することなどの制度的対応、ライフスタイルなど需要面の変化、人々の社会参加・政策過程の変化などの要素が重要であることに留意します。

(4) 国際的発信

超長期の展望に関する我が国の取組を世界に示し、相互依存を深める世界と日本の位置するアジアにおいて、この分野でリーダーシップを発揮します。

4 重点的取組事項

展望に関する主要な論点として、温室効果ガスの大幅削減に対応した世界と日本の脱温暖化社会とは何か、顕在化する温暖化の影響にどのように対応するか、深刻化が予測されるアジア地域の環境問題について、東アジアの共同体形成を視野に入れながら、廃棄物・資源循環も含めて、どのように環境協力をを行い、域内の持続可能な開発を進めていくか、貧困・環境破壊が深刻な中で大きな人口増加が予想されるアフリカなどにおける地域的危機にどのよう

に関わっていくか、 本格化する環境・資源・エネルギー制約に対応して、どのように、技術革新を駆動し、制度を整備して循環型社会を形成していくのか、 自然環境の保全・再生、生物の生息・生育空間のつながりを確保する生態系ネットワークの形成により、国内からアジア太平洋地域をはじめ、グローバルな生物多様性をいかに確保するか、 国内の少子高齢化と人口減少に対応した、環境関連社会資本と生物多様性の観点を含む二次的自然の維持形成の在り方、 自然資源の国際的需給が将来ひっ迫するであろうことに備えて、どのように国内において環境保全型の第一次産業を活性化させていくか、 環境汚染蓄積などの将来への「負の遺産」問題への対応、 環境リスクの早期発見・早期対応のための仕組み、 高齢者の社会参加を含むライフスタイル及び地域社会づくりの在り方、 先進的な技術・研究・経験を踏まえた環境立国としての世界への貢献などについて検討を深め、超長期の展望を提示します。